

楽天銀行 長期投資分析

預金基盤・運用先・経営統合・資本効率をファクトで整理



2022/3期～2026/3期を中心に整理

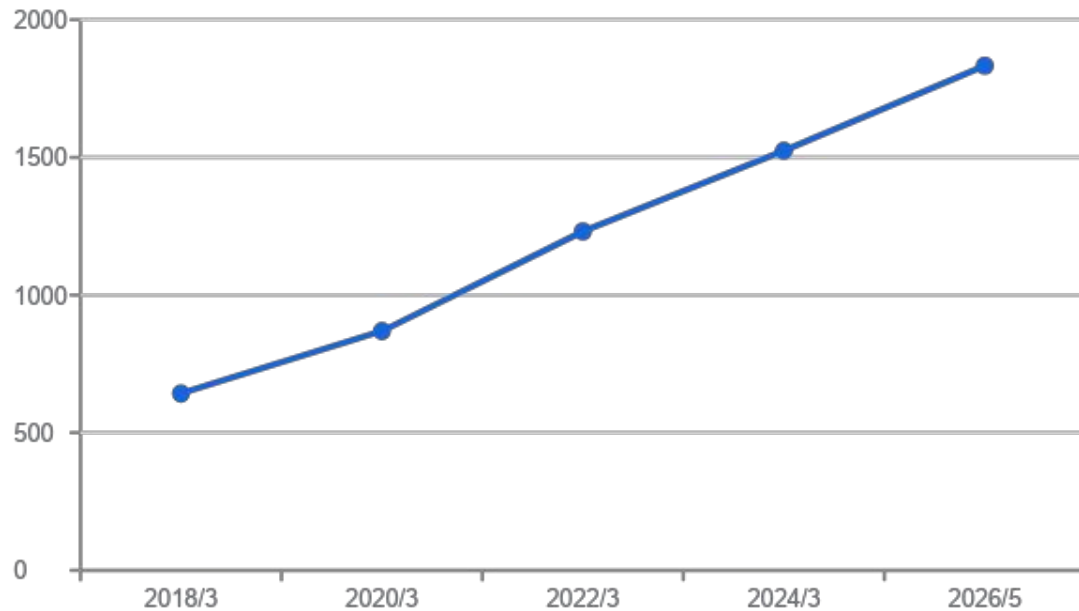
※本資料は分析用の叩き台です。投資判断は最新の開示資料をご確認ください。

1. 楽天銀行の成り立ち

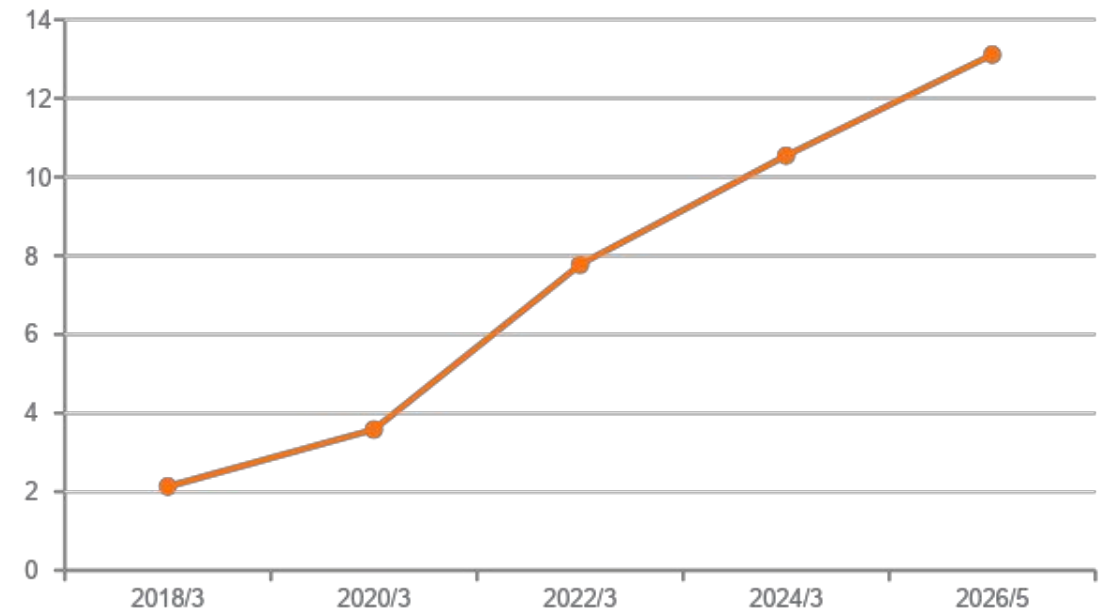
ネット銀行として始まり、楽天経済圏の中核的な預金基盤へ



口座数の推移(万口座)



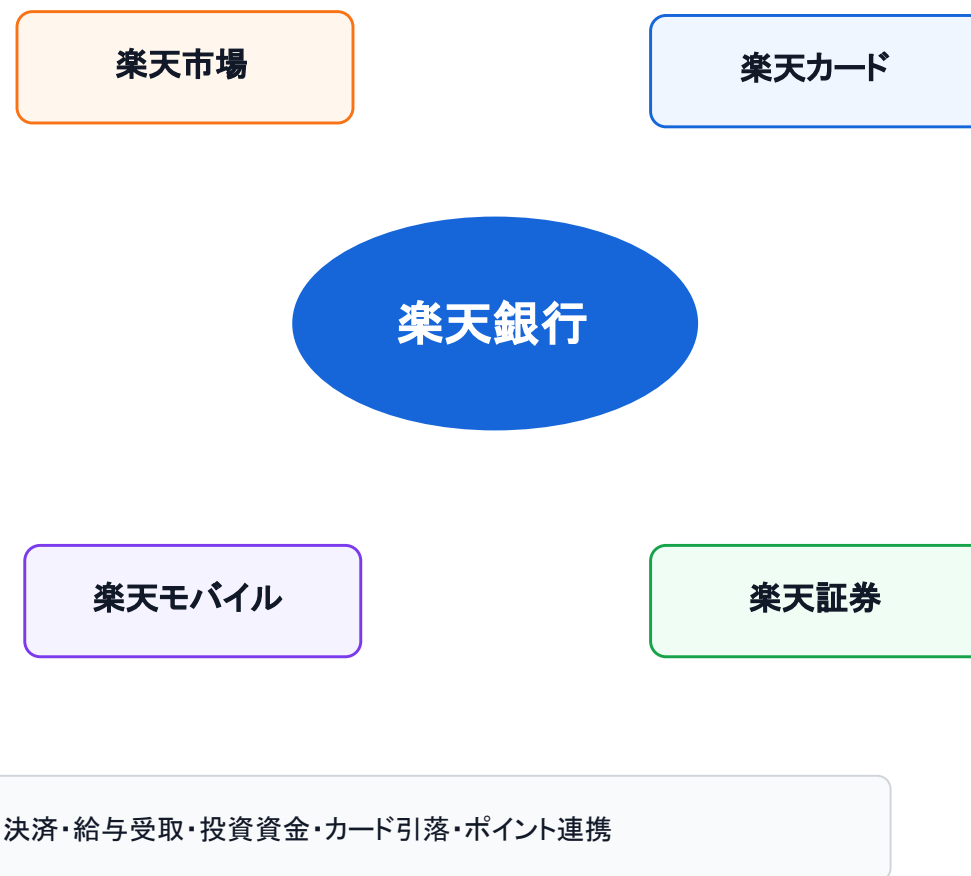
預金残高の推移(兆円)



2. 口座数・預金残高が伸びる理由

楽天経済圏・生活口座化・証券連携が利用導線を作る

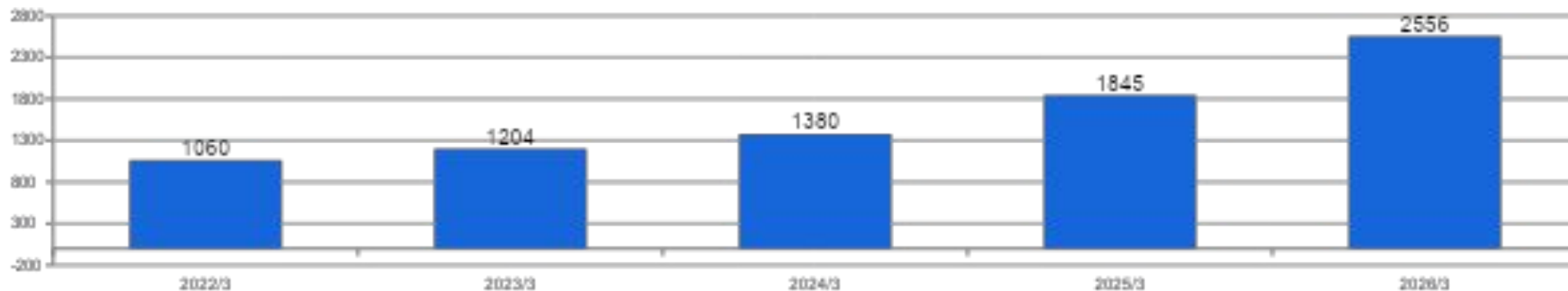
- 楽天市場・楽天カード・楽天証券・楽天モバイル等との接点
- 楽天ポイントを通じたサービス横断利用
- 楽天証券とのマネーブリッジ／投資資金の受け皿
- カード引落・口座振替・給与受取など日常利用の導線
- スマホ完結・ATM提携・振込/入出金の利便性



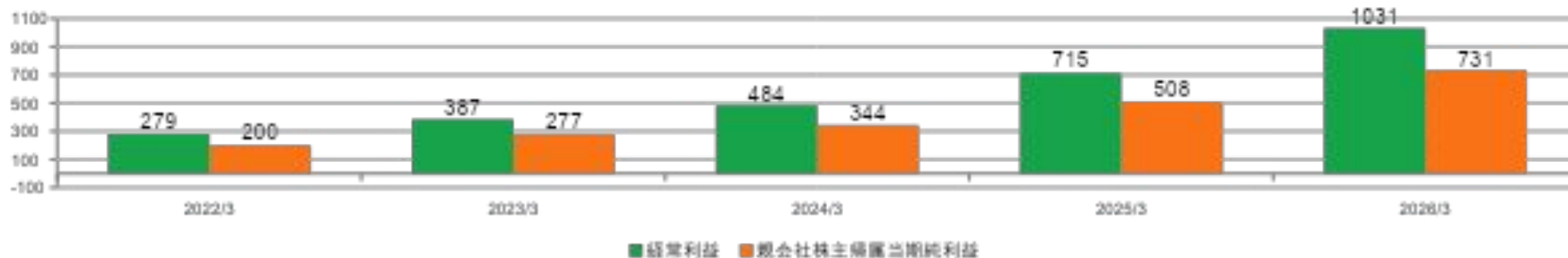
3. 業績推移

経常収益・経常利益・親会社株主帰属当期純利益の推移

経常収益(億円)



経常利益・親会社株主帰属当期純利益(億円)

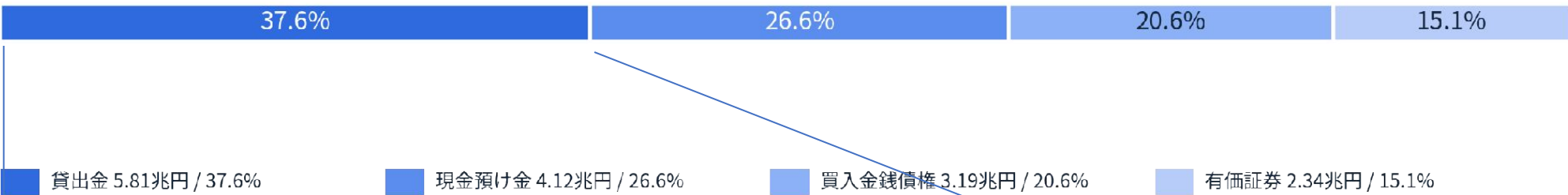


4. 預金の主な運用先と貸出金の内訳

2026年3月末時点の主な資産構成と貸出金内訳

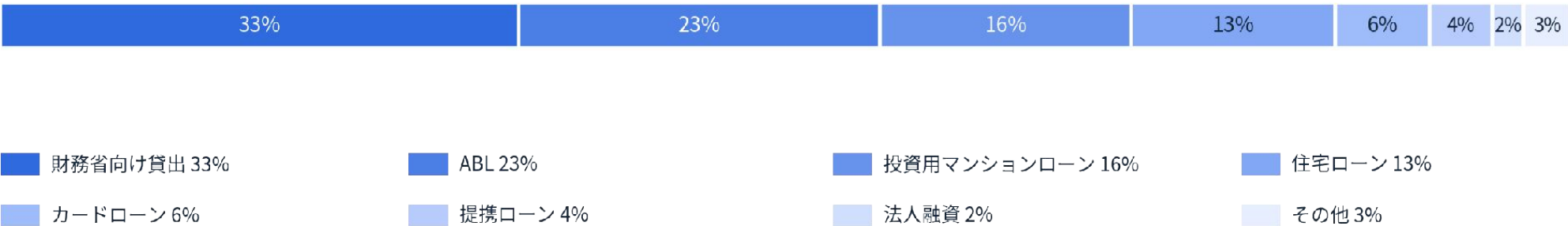
預金の主な運用先

総額：15.46兆円 (2026年3月末時点の主な資産構成)



貸出金の内訳

貸出金合計：5.81兆円 (2026年3月末、単体)



5. ネット銀行でも、貸出金の中身は大きく異なる

住宅ローン中心か、分散・独自運用型か

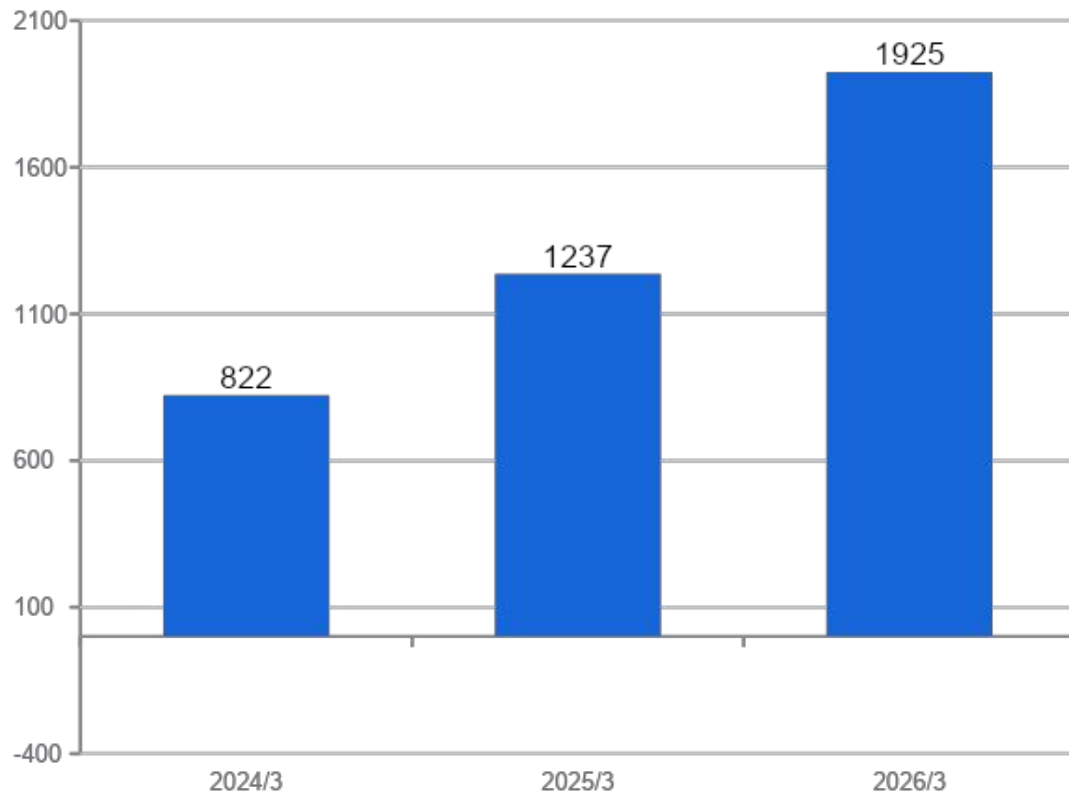
銀行	確認できる数値・特徴	貸出モデルの見える方
楽天銀行	住宅ローン13%。財務省向け貸出33%、ABL23%、投資用マンションローン16%	住宅ローン中心ではない
住信SBIネット銀行	住宅ローンを主力事業として展開。住宅ローン新規実行額No.1を訴求	住宅ローン型の代表例
auじぶん銀行	貸出金100%個人向け。設備資金94.46%	住宅ローン寄り
イオン銀行	個人向け84%、設備資金43.9%	個人・住宅関連が大きい
PayPay銀行	個人向けローン、住宅ローン、事業性ローン等を展開	複合型

楽天銀行の特徴: ネット銀行でありながら、貸出金の中心は住宅ローンではなく、財務省向け貸出・ ABL・投資用マンションローンなど。

6. 金利上昇のカギは「預金の粘着性」

金利収益は伸びる一方、預金コスト上昇との綱引きになる

資金運用収益の推移



プラス要因

- 日銀預け金利息の増加
- 財務省向け貸出利息の増加
- 変動金利貸出の利息増加
- 買入金銭債権の利回り改善余地

注意要因

- 預金金利の引き上げ
- 高金利預金への流出
- 金利感応度の高い預金の流出
- 預金獲得競争の激化

利ざや拡大の条件：低コスト預金逃げないこと

7. 楽天銀行の預金は粘着性があるのか

生活口座化が低コスト預金の安定性を支える可能性

メイン口座比率

32.8%

口座振替または給与・賞与受取口座として利用

生活口座化の導線

給与・賞与受取

口座振替

楽天カード引落

楽天証券連携

楽天ポイント

スマホ決済・送金

金利だけで集まった預金ではなく、日常利用の導線に組み込まれた預金かが重要。

8. 楽天銀行・楽天カード・楽天証券 HDの経営統合スキーム

株式交付により、楽天銀行の下にカード・証券が入る構造

統合前



統合後

株式交付
→



楽天銀行株を対価として交付し、楽天カード・楽天証券HDを子会社化するスキーム。

9. 株式交付による希薄化の論点

既存株主の持分比率は低下し、統合後の資本効率が焦点となる



確認項目	見るポイント
新規交付株式数	既存株主の希薄化率
株式交付比率	対象会社の評価水準
統合後EPS / ROE	資本効率が維持されるか
楽天グループ保有比率	将来の売却・オーバーハング

持分比率 = 既存発行済株式数 ÷ 統合後発行済株式数

10. 統合シナジーの中心は「資金調達」と「顧客接点」

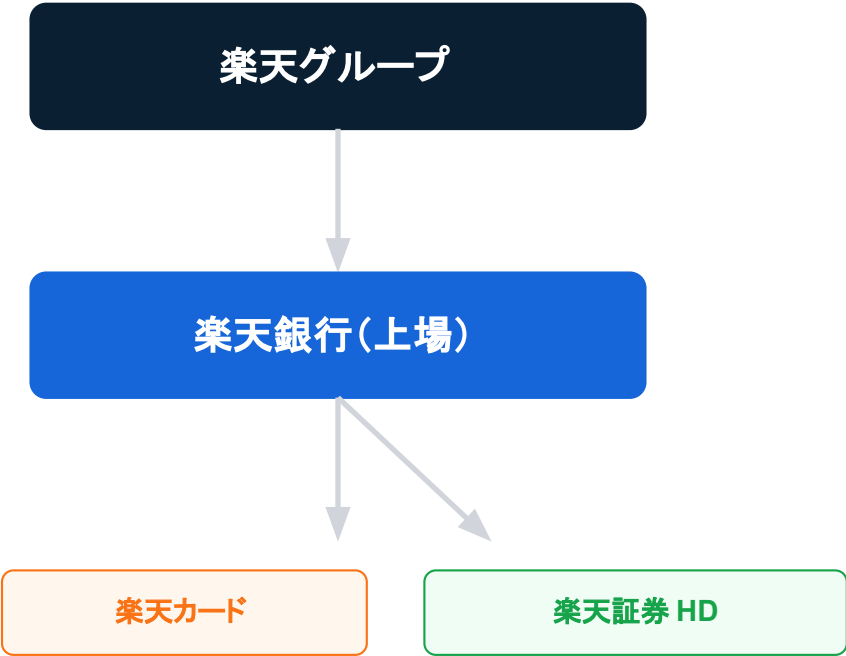
銀行・カード・証券を一体化する会社側の合理性



シナジー	内容
資金調達	楽天銀行の預金をカード・証券の資金需要に活用
顧客接点	銀行・カード・証券のユーザーを相互送客
クロスセル	口座、カード、NISA、投信積立、ローン等を連携
生活口座化	カード引落・証券連携で楽天銀行の利用頻度を高める

11. ガバナンス:親会社と少数株主の利害は一致するか

上場会社としての楽天銀行の成長インセンティブが論点



利害が一致する面	内容
価値向上	楽天銀行グループの企業価値向上は親会社にもプラス
金融事業の中核化	銀行・カード・証券を一体化し、事業価値を高めやすい
資本政策余地	保有株式価値の上昇は選択肢を広げる

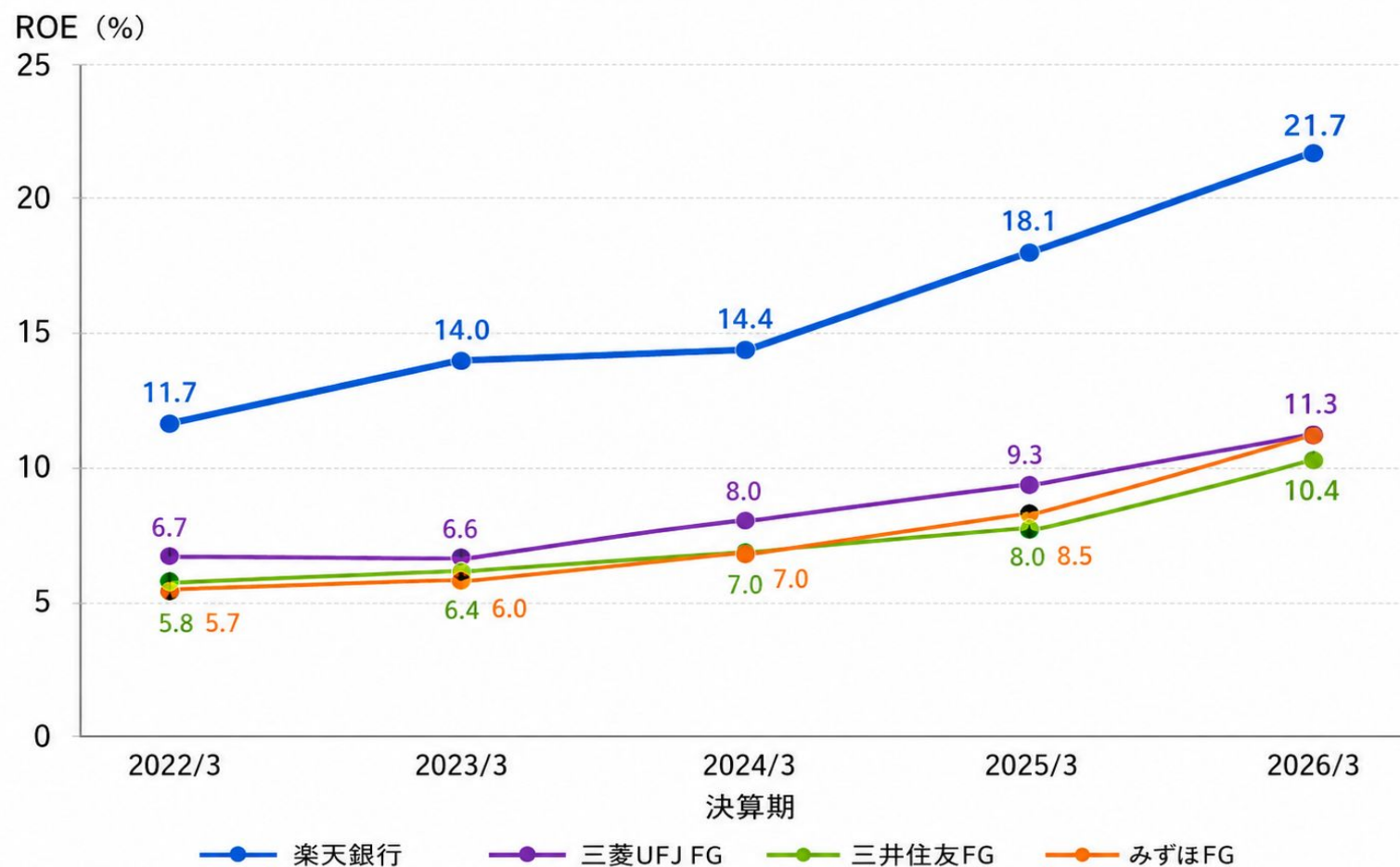
利害がズれる可能性	内容
グループ内取引	資金供給・融資条件が公正か
資本政策	親会社の資金需要が優先されないか
株式売却	将来の売却・オーバーハング

統合後の焦点は、シナジーの有無だけではなく、楽天銀行の成長が少数株主にも還元されるガバナンスになっているか。

12. ROE推移比較

楽天銀行とメガバンク3社の資本収益性(2022/3期～2026/3期)

ROE推移比較 (2022/3期～2026/3期)



ディスカッションポイント: 楽天銀行をどう見るか

- 預金の粘着性はどの程度か？
- 資産運用の高度化はできるか？
- カード・証券とのシナジーを発揮できるか？
- 親会社との関係、ガバナンスは適切か？
- 高い資本収益性を維持し続けられるか？
- マクロ環境として、金利はこれからどうなるか？

Discussion